

# 第12回 横浜市立病院経営評価委員会

日時 平成29年5月12日(金) 19時から21時まで

場所 コンベンションルームAP横浜駅西口 E室

## 次 第

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 横浜市立病院の取組状況等について
- (2) 市民病院再整備について
- (3) その他

### 3 閉会



## 横浜市立病院の取組状況等について

### 1 29 年度の取組事項（事業概要）

### 2 28 年度の取組実績

- ・『横浜市立病院中期経営プラン 2015－2018』におけるアクションプラン  
の主な実績見込み
- ・主な病院経営指標《速報値》

# 1 29年度の取組事項

## 市民病院

市民病院は、急性期を中心とした総合的な病院であり、「がん」「救急」「周産期」「感染症」等、地域から必要とされる政策的医療及び高度急性期医療に積極的に取り組んでいます。

現在、病院の再整備を進めており、平成32年度の新病院開院を見据えてより一層の医療機能の充実・強化を図りながら、同時に経営改善にも取り組み、将来にわたって黒字を維持できる経営基盤づくりを加速させます。

### 1 収支目標と主な経営指標

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
収支目標	経常収支	3.16億円	2.34億円	2.38億円	
	入院収益	131.92億円	138.36億円	141.97億円	2.6%
	外来収益	47.31億円	52.49億円	56.36億円	7.4%
経営指標	一般病床利用率	88.6%	90.0%	91.0%	1.0p
	入院診療単価	65,196円	67,500円	68,500円	1.5%
	外来診療単価	14,361円	16,000円	16,679円	4.2%
	給与費対経常収益比率	52.6%	54.2%	53.2%	△ 1.0p
	(参考)給与費対医業収益比率	57.8%	58.8%	57.8%	△ 1.0p

※給与費対医業収益比率における医業収益は、一般会計繰入金を除いた金額です。

### 2 業務量

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
業務量	(一日平均)入院患者数	(553人) 202,341人	(562人) 204,984人	(568人) 207,262人	1.1%
	(一日平均)外来患者数	(1,356人) 329,407人	(1,350人) 328,050人	(1,385人) 337,940人	3.0%
	がん検診受診者数	一次 27,860人 二次 9,905人	28,800人 10,156人	29,831人 9,995人	3.6% △ 1.6%

### 3 病院概要

開院	昭和35年10月18日
所在地	保土ヶ谷区岡沢町56番地
敷地面積	20,389㎡
建物延床面積	病院 37,292㎡ がん検診センター 4,212㎡ 付属施設 1,745㎡
病床数	650床 (一般624床、感染症26床)
職員数	1,073人 (平成29年4月14日現在) うち医師 133人 (他に研修医・研究医82人) 看護職員 707人
診療科	33科



## 1 医療機能の充実

### (1) 市立病院にふさわしい政策的医療や専門医療の提供

- ア 専門チームを編成し、患者の身体的負担が少ない不整脈治療（カテーテルアブレーション治療）などに取り組みます。
- イ 救急ホットラインを心臓血管疾患に加え脳卒中にも拡大し、より多くの救急患者を迅速に受け入れます。
- ウ 市民公開講座に加え、大学生など若い世代を対象に子宮がんや乳がんなど女性に特有のがんに関する講演会等を開催し、がん検診受診者の増加を図ります。
- エ がん患者支援の充実に向け、ハローワークや社会保険労務士と連携した就職・就労支援を継続するとともに、がん患者同士の交流の場の設置に向けた検討を進めます。

### (2) 医療の質と安全性の向上

- ア 認知症状を有する患者の入院にあたり、認知症サポートチームが早期に介入して認知症状の緩和に努め、身体疾患の治療を円滑に受けられるよう積極的に支援します。
- イ 医療事故を起こさないためにインシデントレポート等を活用し、課題の抽出と改善に取り組み、医療の安全性をさらに高めます。

## 2 地域医療全体への貢献

### (1) 地域包括ケアシステムの構築支援

- ア 地域完結型医療の実現に向け、急性期、回復期などの病院機能に応じた病病連携や紹介・逆紹介の推進による病診連携を推進・強化します。
- イ 退院支援職員の病棟配置、多職種カンファレンスや他の医療機関・老人介護施設との連携などにより、退院後の生活も見据えたきめの細かい退院支援を行います。
- ウ 地域の医療機関、在宅医、訪問看護ステーションや介護施設等の職員を対象とした研修会を実施するなど、地域医療人材の育成支援に積極的に取り組みます。
- エ ICTを活用した地域医療連携ネットワークを充実・強化するため、病院診療データ（画像、文書、レポート）の他の各医療機関との共有化、オーダリング連携及び診療予約オンライン化に取り組みます。

## 3 経営力の強化

### (1) 収益確保・経費削減

- ア 紹介・逆紹介の推進や「断らない救急」の実践により、より多くの新規患者を受け入れます。
- イ 薬剤の在庫管理を徹底するほか、ジェネリック薬品の拡大、医薬材料における同効品の整理や品目数の削減などにより、引き続き材料費の圧縮を図ります。

## 4 「患者や職員に選ばれ、信頼される病院」としての取組

### (1) ホスピタリティの向上

- ア 診療・会計・駐車場などにおける業務を見直し、「お待たせしない病院」を目指します。
- イ 日本語を話せない患者に対応するため、タブレット端末を利用した通訳サービスや多言語音声翻訳アプリを活用していくほか、各種案内・様式類の外国語対応を進めます。
- ウ 横浜ガストロノミ協議会や横濱元町霧笛楼と協力し、「食生活」の観点から病院食の改善に取り組みます。まず、通常の食事が摂れない患者向けのスープの開発・提供を開始します。

### (2) 人材の確保・育成、働きやすい職場環境づくり

- ア 病院の魅力を積極的にPRし、より優秀な臨床研修医を多く確保します。
- イ 看護師を対象に導入した「能力活用型昇任制度」の対象職種を拡大します。
- ウ 職員の資格取得を支援し、病院経営の専門知識を持つ職員を育成します。
- エ 病棟における看護師の2交代制勤務を拡大します。
- オ 業務量調査・分析に基づいて働き方を見直し、超過勤務時間を削減します。
- カ 病院内保育所の保育時間を拡大します。

## 脳卒中・神経脊椎センター

脳卒中・神経脊椎センターは、脳血管疾患に加え、中枢神経全般に対応する公立の専門病院として医療機能の充実を図りながら経営改善に努めてきました。

今後も、引き続き病院ブランドの確立に向け、優れた医療を提供することはもとより、先進的な医療の実践、新たな診断・治療法の研究・開発にも積極的に取り組みます。また、経営面でも一層の経営改善を進め、引き続き経常黒字の確保を目指します。

### 1 収支目標と主な経営指標

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
収 支 目 標	経常収支	2.22億円	1.36億円	1.70億円	
	入院収益	43.12億円	46.54億円	47.47億円	2.0%
	外来収益	5.39億円	7.17億円	7.20億円	0.4%
経 営 指 標	病床利用率	82.0%	85.0%	85.0%	—
	入院診療単価	47,903円	50,000円	51,000円	2.0%
	外来診療単価	11,845円	12,300円	12,300円	—
	給与費 対経常収益比率	52.7%	54.8%	54.9%	0.1p
	(参考)給与費 対医業収益比率	81.3%	81.2%	81.0%	△ 0.2p

※給与費対医業収益比率における医業収益は、一般会計繰入金を除いた金額です。

### 2 業務量

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
業 務 量	(一日平均) 入院患者数	( 246人) 90,023人	( 255人) 93,075人	( 255人) 93,075人	—
	(一日平均) 外来患者数	( 187人) 45,481人	( 240人) 58,320人	( 240人) 58,560人	0.4%

### 3 病院概要

開院 平成 11 年 8 月 1 日  
所在地 磯子区滝頭一丁目 2 番 1 号  
敷地面積 18,503 m<sup>2</sup>  
建物延床面積 病院(地下駐車場等を含む) 35,324 m<sup>2</sup>  
介護老人保健施設 3,413 m<sup>2</sup>  
附属施設 3,056 m<sup>2</sup>  
病床数 300 床  
職員数 448 人 (平成 29 年 4 月 14 日現在)  
うち医師 27 人  
(他に嘱託医 5 人)  
看護職員 260 人



診療科 8 科  
介護老人保健施設 定員 入所 80 人、通所 33 人

※介護老人保健施設は、指定管理者による運営及び利用料金制を導入しています。

## 1 医療機能の充実

### (1) 市立病院にふさわしい政策的医療や専門医療の提供

- ア 引き続き市内トップクラスの脳卒中救急患者を受け入れ、脳卒中急性期における「高度専門的医療を行う施設」を目指します。
- イ 側弯症等の脊柱変形に対する手術件数で、市内トップクラスの実績を目指します。
- ウ 側弯症に対する医療の充実を図るため、学校健診への支援を行います。
- エ 上肢用ロボット型運動訓練装置や装着型歩行アシストロボット等を活用した先進的なりハビリテーションに積極的に取り組みます。

### (2) 医療の質と安全性の向上

- ア 平成30年1月の電子カルテシステム更新に向けた準備を進めるとともに、クリニカルパス作成支援機能を積極的に活用して医療の質の向上を図ります。
- イ 医療事故を起こさないためにインシデントレポート等を活用し、課題の抽出と改善に取り組み、医療の安全性をさらに高めます。

## 2 地域医療全体への貢献

### (1) 地域包括ケアシステムの構築支援

- ア 地域完結型医療の実現に向け、急性期、回復期などの病院機能に応じた病病連携や紹介・逆紹介の推進による病診連携を推進・強化します。
- イ 地域の医療機関や介護施設等の職員に、当院の専門領域に関係するテーマでの研修会を実施するなど、地域医療人材の育成支援に積極的に取り組みます。

## 3 経営力の強化

### (1) 収益確保・経費削減

- ア 紹介・逆紹介の推進や「断らない救急」の実践により、より多くの新規患者を受け入れま
- す。
- イ 一般病棟のほか、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を持つ特長を活かし、救急・急性期から回復期まで、患者の状態に応じて効率的な病床運用を図ります。

## 4 「患者や職員に選ばれ、信頼される病院」としての取組

### (1) ホスピタリティの向上

- ア 診療・会計・駐車場などにおける業務を見直し、「お待たせしない病院」を目指します。

### (2) 人材の確保・育成、働きやすい職場環境づくり

- ア 看護師を対象に導入した「能力活用型昇任制度」の対象職種を拡大します。
- イ 職員の資格取得を支援し、病院経営の専門知識を持つ職員を育成します。
- ウ 職員のワークライフバランスを考慮し、働きやすい職場を作るため、働き方を見直し、病棟における看護師の2交代制勤務を拡大するとともに、超過勤務時間の削減に取り組みます。

# みなと赤十字病院

みなと赤十字病院は、日本赤十字社を指定管理者とし、市との協定に基づいて救急、アレルギー疾患、災害時医療などの政策的医療等を安定的に提供しています。

平成29年度も引き続き質の高い医療が提供されるよう、市として指定管理者の取組の点検・評価を適確に行ってまいります。

## 1 病院事業会計における経常収支

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
収支目標	経常収支	△ 0.15億円	0.03億円	0.33億円	

## 2 日本赤十字の収支目標と主な経営指標 <日本赤十字社決算報告書、事業計画書より>

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
収支目標	経常収支	1.31億円	2.86億円	0.99億円	
	入院収益	145.10億円	149.51億円	157.69億円	5.5%
	外来収益	35.13億円	35.74億円	38.26億円	7.0%
経営指標	一般病床利用率	83.9%	86.5%	87.4%	0.9p
	入院診療単価	76,046円	76,992円	79,523円	3.3%
	外来診療単価	12,401円	12,688円	13,929円	9.8%
	給与対経常収益比率	47.1%	46.5%	47.9%	1.4p
	(参考)給与対医療収益比率	49.0%	48.3%	49.5%	1.2p

## 3 業務量 <日本赤十字社決算報告書、事業計画書より>

		27年度 決算	28年度 予算	29年度 予算	対前年度 算
業務量	(一日平均) 入院患者数	(521人) 190,799人	(532人) 194,191人	(543人) 198,300人	2.1%
	(一日平均) 外来患者数	(1,166人) 283,283人	(1,159人) 281,673人	(1,126人) 274,657人	△ 2.5%

## 4 病院概要

開院	平成17年4月1日
所在地	中区新山下三丁目12番1号
敷地面積	28,613 m <sup>2</sup>
建物延床面積	74,148 m <sup>2</sup> (地下駐車場等を含む)
病床数	634床 (一般584床、精神50床)
職員数	1,196人 (平成29年4月1日現在)
	うち医師 126人
	(他に後期研修医・嘱託医 98人)
	看護職員 669人
診療科	36科





## 1 医療機能の充実

### (1) 市立病院にふさわしい政策的医療や専門医療の提供

- ア アレルギー疾患対策基本法の施行（平成 27 年 12 月）を踏まえ、基幹病院としてアレルギー疾患全般に積極的に取り組みます。
- イ 循環器 X 線診断装置を備えたハイブリッド型手術室を整備します。

### (2) 医療の質と安全性の向上

- ア 電子カルテシステム更新に伴い、クリニカルパス作成機能や持参薬管理機能等を積極的に活用して医療の質の向上を図ります。
- イ 医療事故を起こさないためにインシデントレポート等を活用し、課題の抽出と改善に取り組み、医療の安全性をさらに高めます。

## 2 地域医療全体への貢献

### (1) 地域包括ケアシステムの構築支援

- ア 地域完結型医療の実現に向け、急性期、回復期などの病院機能に応じた病病連携や紹介・逆紹介の推進による病診連携を推進・強化します。
- イ 退院支援職員の病棟配置、多職種カンファレンスや他の医療機関・老人介護施設との連携などにより、退院後の生活も見据えたきめの細かい退院支援を行います。
- ウ 地域の医療機関、在宅医、訪問看護ステーションや介護施設等の職員を対象とした研修会を実施するなど、地域医療人材の育成支援に積極的に取り組みます。

## 3 「患者や職員に選ばれ、信頼される病院」としての取組

### (1) ホスピタリティの向上

- ア 日本語を話せない患者に対応するため、タブレット端末を利用した通訳サービスや多言語音声翻訳アプリを活用していくほか、各種案内・様式類の外国語対応を進めます。

### (2) 人材の確保・育成、働きやすい職場環境づくり

- ア 院内保育所の保育時間を拡大します。

## 一般会計からの繰入金

### 基本的な考え方と見直し内容

- ・ 一般会計繰入金については、総務省繰出基準外の繰入金を原則行わない現行の枠組みを維持しながら、基準内の繰入項目についても見直しを進めてきました。
- ・ これまでの経営改善の取組により、政策的医療等に対する繰入金は、提供する医療の質の向上を図りながら、平成17年度の公営企業法の全部適用以降、減額を進めてきました。
- ・ 建設改良費等に対する繰入金については、再整備事業を含め、一般会計繰入金の総額を抑制・平準化できるよう計画的な投資・償還を行い、その上で必要な額を繰入れ、市民のための医療機能の充実を図っています。

### 1 一般会計繰入金の性質別推移

	27年度 決	28年度 算	29年度 算	対前年度 算
<b>政策的医療</b>	<b>24.6億円</b>	<b>24.4億円</b>	<b>24.4億円</b>	<b>—</b>
市民病院	5.0億円	5.0億円	5.0億円	—
脳卒中・神経脊椎センター	16.3億円	16.3億円	16.3億円	—
みなと赤十字病院	3.3億円	3.2億円	3.2億円	—
<b>公営企業の性格上発生する経費</b>	<b>5.4億円</b>	<b>6.9億円</b>	<b>7.3億円</b>	<b>5.8%</b>
市民病院	3.4億円	4.9億円	5.1億円	4.1%
脳卒中・神経脊椎センター	2.1億円	2.1億円	2.2億円	4.8%
みなと赤十字病院	—	—	—	—
<b>建設改良費</b>	<b>38.8億円</b>	<b>41.1億円</b>	<b>37.0億円</b>	<b>△ 10.0%</b>
市民病院	9.8億円	10.2億円	7.5億円	△ 26.5%
脳卒中・神経脊椎センター	10.2億円	12.1億円	10.7億円	△ 11.6%
みなと赤十字病院	18.8億円	18.8億円	18.8億円	—
<b>合 計</b>	<b>68.8億円</b>	<b>72.5億円</b>	<b>68.8億円</b>	<b>△ 5.1%</b>
市民病院	18.1億円	20.0億円	17.6億円	△ 12.0%
脳卒中・神経脊椎センター	28.6億円	30.5億円	29.2億円	△ 4.3%
みなと赤十字病院	22.1億円	22.0億円	22.0億円	—

## 2 28年度の取組実績

### 平成28年度市民病院アクションプラン

基本目標								
具体的な目標	達成項目	26年度	27年度	28年度			29年度	30年度
		実績	実績	目標値	実績見込	差引	目標値	目標値
医療機能の充実								
がん診療体制の充実	がん検診受診者数（一次検診）	27,501人	27,860人	28,800人	<b>26,459人</b>	△2,341人	29,400人	30,000人
救命救急センターの充実	救急車搬送受入件数	5,638件	5,374件	5,800件	<b>5,221件</b>	△579件	5,900件	6,000件
	救急搬送受入後入院件数	2,554件	2,653件	2,800件	<b>2,516件</b>	△284件	2,900件	3,000件
	救急車応需率	93.1%	93.7%	94.0%	<b>92.6%</b>	△1.4P	94.5%	95.0%
周産期医療の充実	分べん件数	1,080件	1,124件	1,000件以上	<b>1,126件</b>	126件	1,000件以上	1,000件以上
質の高い医療提供体制の充実	入院前アセスメントの実施率（アセスメント件数/予定入院患者）	1%	25%	50%	<b>51%</b>	1P	40%	50%
	クリニカルパス適用率	28.3%	33.6%	37.0%	<b>34.9%</b>	△2.1P	41.0%	54.0%
医療安全への取組強化	安全管理に関する取組・改善件数	13件	19件	15件	<b>18件</b>	3件	15件	15件
地域医療全体への貢献								
地域医療人材の育成	臨床研修医採用試験受験者数	130人	114人	110人以上	<b>118人</b>	8人	110人以上	110人以上
経営力の強化								
収益確保	医業収益の増	17,977百万円	18,704百万円	19,673百万円	<b>19,655百万円</b>	△18百万円	19,944百万円	20,215百万円
患者満足度の向上	入院患者満足度	88.3%	89.5%	90%以上	<b>86.8%</b>	△3.2P	90%以上	90%以上
	外来患者満足度	82.0%	79.1%	90%以上	<b>81.7%</b>	△8.3P	90%以上	90%以上
職員満足度の向上	職員満足度	51.9%	51.9%	60%以上	<b>53.0%</b>	△7.0P	60%以上	60%以上
	新卒1年目から3年目の看護職員の離職率	16.0%	16.0%	10%未満	<b>14.9%</b>	△4.9P	10%未満	10%未満

### 平成28年度市民病院経営指標《速報値》

項目	26年度実績	27年度実績	28年度実績見込み	増減
入院				
入院診療単価	63,508円	65,196円	<b>66,432円</b>	1,236円
入院患者数	202,086人	202,341人	<b>200,908人</b>	△1,433人
病床利用率	88.7%	88.6%	<b>88.2%</b>	△0.4P
新規入院患者数	16,821人	17,237人	<b>17,521人</b>	284人
平均在院日数	12.0日	11.7日	<b>11.5日</b>	0.2日
外来				
外来診療単価	13,984円	14,361円	<b>16,502円</b>	2,141円
外来患者数（1日あたり）	1,307人	1,356人	<b>1,375人</b>	19人
新規外来患者数（初診料算定患者数）	27,316人	27,960人	<b>27,088人</b>	△872人
紹介				
紹介患者数	21,777人	23,930人	<b>24,180人</b>	250人
逆紹介患者数	14,284人	16,717人	<b>18,227人</b>	1,510人

## 平成28年度脳卒中・神経脊椎センターアクションプラン

基本目標								
具体的な目標	達成項目	26年度	27年度	28年度			29年度	30年度
		実績	実績	目標値	実績見込	差引	目標値	目標値
医療機能の充実								
脳卒中医療機能の充実	脳血管疾患入院患者数	898人	989人	980人	<b>1,147人</b>	167人	1,020人	1,060人
	救急車受入件数	1,087件	1,377件	1,300件	<b>1,564件</b>	264件	1,300件	1,300件
	t-P A実施件数	40件	39件	44件	<b>57件</b>	13件	46件	48件
脊椎脊髄疾患医療機能の充実	手術件数	324件	357件	390件	<b>356件</b>	△34件	420件	450件
リハビリテーション医療機能の充実	早期（入院後3日以内）リハビリテーションの実施率	94.1%	90.6%	90%以上	<b>91.1%</b>	1.1P	90%以上	90%以上
経営力の強化								
収益確保	医業収益の増	4,706百万円	5,000百万円	5,543百万円	<b>5,103百万円</b>	△440百万円	5,701百万円	5,794百万円
患者満足度の向上	入院患者満足度	91.6%	91.2%	90%以上	<b>90.3%</b>	0.3P	90%以上	90%以上
	外来患者満足度	84.9%	90.9%	90%以上	<b>90.1%</b>	0.1P	90%以上	90%以上
職員満足度の向上	職員満足度	56.3%	53.6%	60%以上	<b>55.4%</b>	△4.6P	60%以上	60%以上
	新卒1年目から3年目の看護職員の離職率	2.5%	13.0%	10%未満	<b>20.0%</b>	△10.0P	10%未満	10%未満

## 平成28年度脳卒中・神経脊椎センター経営指標《速報値》

項目	26年度実績	27年度実績	28年度実績見込み	増減
入院				
入院診療単価	47,703円	47,903円	<b>49,642円</b>	1,739円
入院患者数	84,459人	90,023人	<b>89,287人</b>	△736人
病床利用率	77.1%	82.0%	<b>81.5%</b>	△0.5P
新規入院患者数	2,591人	2,865人	<b>2,871人</b>	6人
平均在院日数	32.6日	31.5日	<b>31.1日</b>	0.4日
外来				
外来診療単価	11,982円	11,845円	<b>11,416円</b>	△429円
外来患者数（1日あたり）	180人	187人	<b>187人</b>	0人
新規外来患者数（初診料算定患者数）	4,131人	4,539人	<b>4,657人</b>	118人
紹介				
紹介患者数	2,803人	3,008人	<b>3,130人</b>	122人
逆紹介患者数	3,434人	3,851人	<b>4,120人</b>	269人

平成28年度みなと赤十字病院経営指標《速報値》

項目	26年度実績	27年度実績	28年度実績見込み	増減
入院				
入院診療単価	71,376円	76,046円	<b>76,130円</b>	84円
入院患者数	194,773人	190,799人	<b>196,307人</b>	5,508人
病床利用率	86.4%	83.9%	<b>86.7%</b>	2.8P
新規入院患者数	15,338人	15,723人	<b>15,947人</b>	224人
平均在院日数	12.7日	12.1日	<b>12.3日</b>	△0.2日
外来				
外来診療単価	11,887円	12,401円	<b>13,460円</b>	1,059円
外来患者数（1日あたり）	1,152人	1,166人	<b>1,137人</b>	△29人
新規外来患者数（初診料算定患者数）	39,144人	37,008人	<b>36,708人</b>	△300人
紹介				
紹介患者数	18,212人	18,609人	<b>20,139人</b>	1,530人
逆紹介患者数	14,373人	15,925人	<b>16,621人</b>	696人

## 市民病院再整備について

### 1 建設の概要

昨年度末に実施設計が完了し、現在、建設発注の準備を進めています。新病院の概要についてご報告いたします。

#### ○建物概要

階数・構造	診療棟	地下2階/地上7階/塔屋1階 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造（免震構造）	
	利便施設棟	地下1階/地上2階 鉄骨造	
	管理棟	地上4階 鉄骨造	
	その他	エネルギー棟 他 鉄骨造	
建築面積	〔敷地全体〕 13,754.98 m <sup>2</sup> （〔診療棟側〕 10,795.05 m <sup>2</sup> 〔管理棟側〕 2,959.93 m <sup>2</sup> ）		
延床面積	〔敷地全体〕	64,400.02 m <sup>2</sup>	【駐車場含】 79,645.54 m <sup>2</sup>
	〔診療棟〕	56,345.86 m <sup>2</sup>	【駐車場含】 68,788.06 m <sup>2</sup>
	〔エネルギー棟〕	1,989.18 m <sup>2</sup>	
	〔管理棟〕	6,064.98 m <sup>2</sup>	【駐車場含】 10,857.48 m <sup>2</sup>

#### ○建設費 273億円

（診療棟、管理棟の建設費であり、エネルギー棟についてはESP事業者が建設）

#### ○全体事業費 450億円

（参考）基本計画時点の事業費

項目	現時点の 想定事業費	摘要
建設費	273億円	病院本体、駐車場、外構工事等
用地取得費	74億円	民有地取得費
初度調弁費	58億円	機器購入費、システム構築費
除却費	21億円	現病院の除却費等
その他	23億円	委託費、人件費等
<b>事業費計</b>	<b>450億円</b>	※端数調整後の概算数値
利子負担額	25億円	※金利の見直しによる
合計	475億円	

項目	当初事業費
建設費	252億円
土地購入費	72億円
初度調弁費	58億円
除却費	21億円
その他	23億円
<b>事業費計</b>	<b>426億円</b>
利子負担額	59億円
合計	485億円

※建設費については、延床面積の増加（+5.8%）及び建設物価の上昇（+2.02%）等により、基本計画策定時点よりも約24億円増加していますが、金利の低下に伴う企業債の利子負担額の低減（△約34億円）により、全体としては当初の計画内で執行できる見込みです。

#### ○全体スケジュール

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
用地取得		●覚書締結	●契約	●引き渡し					
基本計画及び設計	基本計画	基本設計	実施設計						
建設		エネルギー棟	選定 入札 手続き	設計	建設	建設	建設	●竣工 ●開院	
			診療棟	入札 手続き	建設	建設	建設		
債務負担行為		基本設計(1億円) 限度額:1.2億円(27年度)							
			用地取得(74億円) 限度額:70億円(28～29年度)						
					建設(273億円) 限度額:270億円(30～31年度)				

### 2 ESP（エネルギーサービスプロバイダー）事業

新病院で使用する電気・冷温水・給湯・蒸気の調達について、ESP（エネルギーサービスプロバイダー）事業の手法を導入します。公募型プロポーザル方式により3者から提案を受け、昨年8月に「東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社」を優先交渉権者として選定しました。同社は、エネルギー供給施設の設計・施工、運営管理から病院への供給まで、エネルギー関連業務を一括して請け負います。導入効果としては次のとおりです。

- 初期投資、建設費等の抑制を図ります。（初期投資コストとランニングコストを合わせた財政負担を15年間で平準化します。）
- エネルギーの安定供給、災害時には連続7日間の非常用発電機の運転を実施します。
- 業務負担の軽減、省エネ・省コストをトータルで実現します。

### 3 利便施設の公募選定について

レストランやカフェ、コンビニエンスストアを利便施設棟に集約・整備します。利便施設についても、同様に、公募型プロポーザル方式により4者から提案を受け、本年2月に「株式会社ローソン」を優先交渉権者として選定しました。

#### (1) 事業概要

- 貸付料は基本貸付料と店舗ごとの売上高に対し一定の料率（運営事業者の提案に基づく）を加えた額とします。
- 貸付期間は新病院運営開始日から平成47年3月31日までとします。
- 店舗の内装工事や、什器・備品の整備は、運営事業者の負担により行います。
- 貸付料や店舗のサービス内容等は、事業開始後5年目以降を目途に協議のうえ見直すことがあります。

#### (2) 提案概要

##### ア コンビニエンスストア

- 入院中に必要となる日用品等の取扱いやATM、郵便ポストを設置します。また、店内はバリアフリーに配慮した計画とします。
- コンビニ本部の災害協定を活かし、災害時には全国の配送センターから救援物資を供給します。また、必要に応じ、店内の食品等を無償で提供します。

##### イ カフェ

- 年中無休で営業時間は7時から20時（土日祝日は8時から19時）とします。面会者や勤務時間が不規則な職員等にも利用しやすい時間帯を設定しました。
- 車椅子の方にも使いやすいカウンターの設置などユニバーサルデザインを取り入れた計画とします。
- 季節に合わせたメニューや、食事制限のある利用者のための病院専用メニューを提供します。

##### ウ レストラン

- 年中無休、平日の営業時間は9時から19時とし、朝食や夕食の時間帯に対応します。
- 一般利用者は配下膳などフルサービス、職員は食券方式によるセルフサービスとします。
- 職員に対しては、手軽な料金で日替わりランチを提供します。

##### エ その他

- コンビニエンスストアやカフェで購入した食品を飲食できるイートインコーナーを設置するとともに、長期間の利用も可能なコインロッカーを設置します。